

騒音基礎調査について

1. 騒音コンター描画手法について

シミュレーションを実施するためには、「音源モデル」「航跡モデル」「フライトパターン」を作成する必要がある。モデル及びパターンは、東京国際空港の実際の運用に伴うものを用いて作成する。来年度実施予定の騒音基礎調査では、各モデル等の作成のための調査を行う。作成方法は次のとおりである。

(1) 音源モデル

音源モデルを作成するために、航空機騒音の測定を実施する。測定した航空機騒音の録音データを1イベントごと周波数分析し、さらに測定地点から航空機までの距離を(2)で示す飛行経路調査結果から算出し、逆補正することでイベントごとの音源の大きさを推定する。そして、これらのデータを機種ごとに平均化することで、音源モデルを作成する。

調査地点は、予備調査結果をもとに、以下の考え方によって選定する。音源調査地点選定案は図1に示す。

- ① 主な運用（離着陸・滑走路）毎に、飛行経路付近（着陸：16L/R、22、離陸：22、34R）で、道路交通騒音や鉄道騒音の影響を考慮し、航空機騒音の最大騒音レベルが、おおむね60dB以上で観測される飛行経路直下の地点とし、運用毎に滑走路からの距離、飛行高度の異なる複数地点。
- ② 予測の再現性を確認するために必要と思われる飛行経路直下から外れた地点。

なお、予測の再現性の確認は、国土交通省が設置している通年測定地点のデータを基本とするが、国土交通省の測定地点が付近にないエリアについては、再現性確認のための調査を行う。

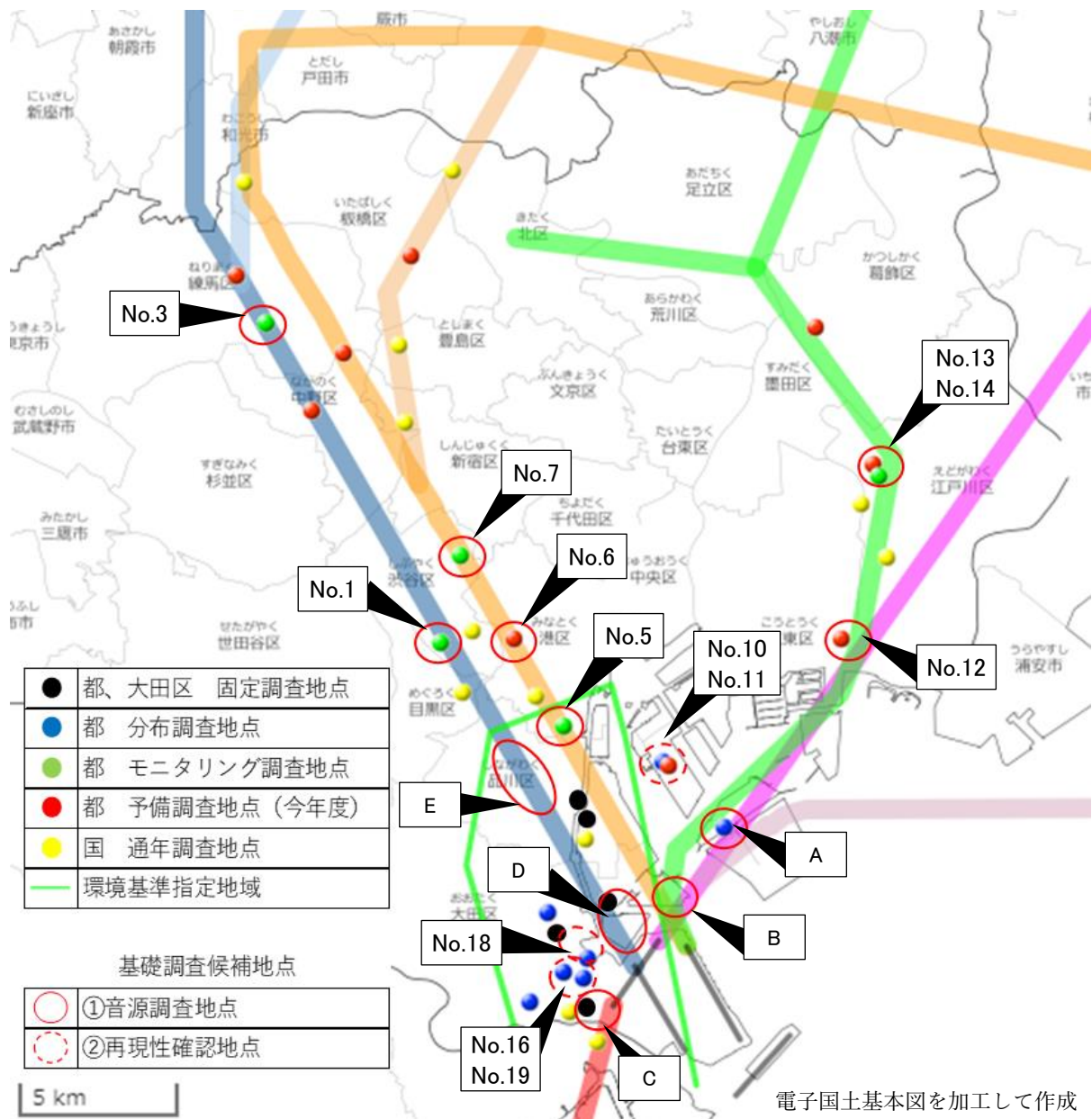
(2) 航跡モデル

航跡モデルを作成するために、飛行経路調査を実施する。飛行経路調査は、ADS-Bを利用する方法のほか、有人による目視調査などがある。羽田空港を離発着数する航空機のうち94.2%はADS-Bを搭載していること、有用な測定データが得られたことから、飛行経路調査はADS-Bを利用する方法とする。

(3) フライトパターン

フライトパターンは年間の運航実績を参照し、機種等と運用ごとの飛行回数を整理することで作成する。

図1 騒音基礎調査地点選定案



騒音基礎調査選定地点一覧

番号	調査地点	番号	調査地点	
No.1	渋谷区立猿楽小学校	No.18	大田区立大森第一中学校	
No.3	練馬区立向山小学校	No.16	大田区立羽田中学校	
No.5	東京都中央卸売市場食肉市場	No.19	大田区立東糞谷小学校	
No.6	都立中央図書館	A	埋立管理事務所	追加選定地点
No.7	渋谷区立千駄谷小学校	B	大田区城南島付近	
No.10	東京都立臨海青海特別支援学校	C	大田区羽田付近	
No.11	臨海副都心青海フロンティアビル	D	大田区京浜島付近	
No.12	東京都下水道局新砂ポンプ所	E	品川区	
No.13	江戸川区立小松川第二中学校			
No.14	小松川図書館			

※No.1～19は、予備調査の実施地点